

# CSRの取り組み

## CSRのしがざん

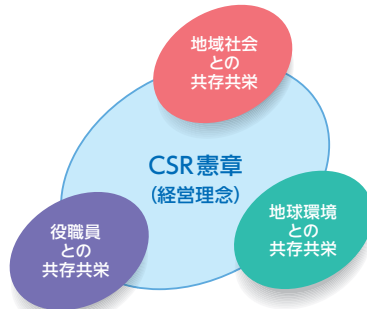
当行は、CSR(企業の社会的責任)を「社会の持続可能な発展のために、社会の一員である当行が果たすべき責任」として位置づけております。そのうえで、「CSR憲章(経営理念)」(平成19年4月制定)で掲げる“地域社会との共存共栄”“役職員との共存共栄”“地球環境との共存共栄”の実現に向けて、「環境」「福祉」「文化」を3本柱に多面的な活動を展開しています。

CSR活動のより詳しい内容については、別途発行しております「CSRレポート」をご覧ください。

### CSR憲章(経営理念)

(平成19年4月制定)

私たちは、伝統ある近江商人の「三方よし(売り手よし、買い手よし、世間よし)」の精神を継承した行是「自分にきびしく人には親切 社会につくす」をCSR(企業の社会的責任)の原点とし、社会の一員として「共存共栄」を実現してまいります。



### 地域社会との共存共栄

地域とともに歩む銀行として、お客さまの信頼と期待にお応えするため、「健全」と「進取」の精神を貫き、地域社会の発展に努めます。

### 役職員との共存共栄

役職員一人ひとりの人権や個性を尊重し、働きがいのある職場づくりに努め、心身ともに「クリーンバンクしがざん」の実現に努めます。

### 地球環境との共存共栄

琵琶湖畔に本拠を置く企業の社会的使命として「環境経営」を実践し、地球環境を守り、持続可能な社会づくりに努めます。

## 環境保全で持続可能な社会の実現へ

### 「エコ・ファースト企業」



CSR活動の中で、環境を主軸とするCSRの追求を「銀行経営の要諦」と位置づけ、銀行経営に環境を取り込む「環境経営」と、金融に環境を組み込む「環境金融」を実践しています。その取り組みが広く認められ、業界のトップランナーとして環境省から金融業界初の「エコ・ファースト企業」の認定(平成20年7月)を受けています。



「エコ・ファースト・フォローアップ式」小沢元環境大臣と 大道頭取(右)(平成22年2月)

### 「CO<sub>2</sub>排出量25%削減」に挑戦

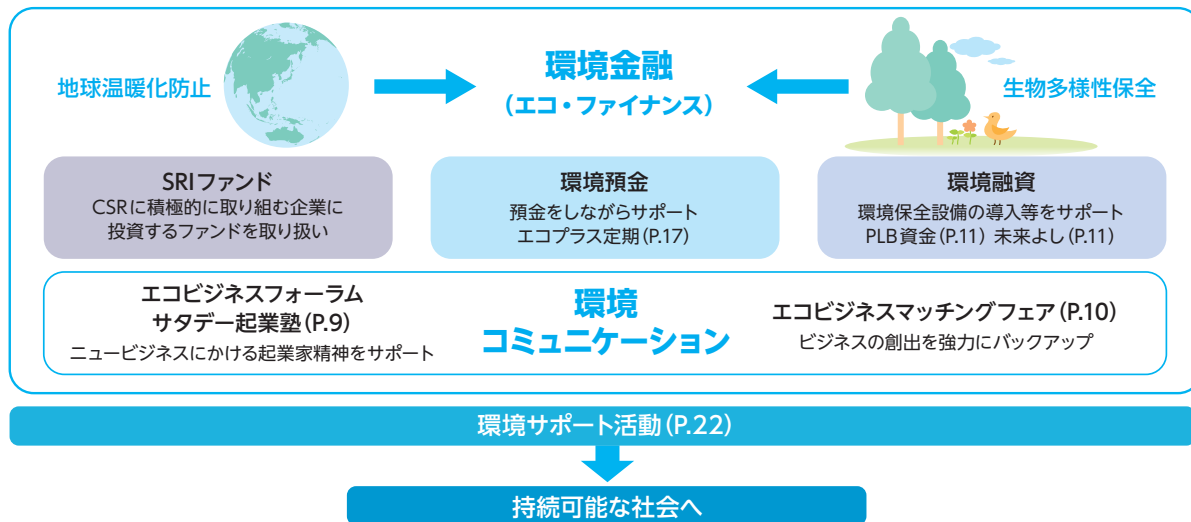


当行では、「第4次長期経営計画」の挑戦指標の一つに、「温室効果ガス(CO<sub>2</sub>)排出量25%削減(平成18年対比)」を掲げ、電力、ガス、水道などの使用量の削減や排出権の購入、環境対応車への切り替えなどにより、平成23年3月末には56.38%削減(同)しました。

### 地方銀行初、「生物多様性保全方針」を制定

「生物多様性保全方針(平成22年8月)」を制定しました。役職員全員が生物多様性の重要性を認識して自ら保全活動を展開するとともに、「環境対応型金融商品・サービス」の充実、提供など、金融業ならではの特性を活かして、生物多様性と経済の調和を目指しています。

## 「環境金融」の実践



## 「金融」の役割を発揮し、地球環境の保全を

当行では、持続可能な社会の実現を目指し、「地球温暖化防止」と「生物多様性保全」の両輪から、環境保全に取り組んでいます。

### 「エコオフィスづくり」

「滋賀銀行環境方針」(平成22年4月改定)のもと、省資源、省エネルギー活動による「エコオフィスづくり」を進めています。平成22年度には、当行で初めての「電気自動車」を導入しました。



「電気自動車」で環境にやさしく

### 皆さまと連携して環境の保全を

地域に根ざす金融機関として、お客さまや地域の皆さまとともに環境保全に取り組もうと、「環境対応型金融商品・サービス」の開発、提供を積極的に行っています。

ATMなどでお預けいただく「エコプラス定期」を通じた学校ビオトープづくりや、「環境格付(PLB格付)」、「生物多様性格付(PLB格付BD)」による保全活動、また、お取引先の温室効果ガスの削減量に応じて資金を拠出し、琵琶湖の固有種で絶滅危惧種の「ニゴロブナ・ワタカ放流事業」など、お客さまとの取引が直接的、間接的に環境や生物多様性の保全につながっています。



平成22年度「ビオトープ助成先」膳所小学校。県内20校の「学校ビオトープ」づくりの資金を贈呈(平成23年6月現在)

琵琶湖をはじめとする地球環境の保全のため、これからも「金融」の役割を通じた持続可能な社会の実現に向けて歩みを進めてまいります。

# CSRの取り組み

## 広がる「環境サポート」の取り組み

地域の自然環境を守り、未来へと引き継ごうとの思いを込めて、当行では毎年、役職員による環境ボランティア活動を実施しています。



### 森づくりサポート活動

当行創立70周年記念として植樹した苗木の生長を見守るため、毎年、環境ボランティアとして除草などに取り組む「森づくりサポート活動」を行っています。平成22年度は2回実施、のべ1,450名が参加しました。



猛暑にも負けず、刈り取り作業が進みます

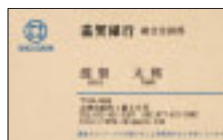
### ヨシ刈りボランティア



琵琶湖の水質保全や魚の産卵場所として欠かせないヨシ群落を保存する「ヨシ刈りボランティア」を平成22年度は2回実施、のべ1,178名が参加しました。なお、刈り取られたヨシはヨシ紙に加工のうえ、当行役職員の名刺として活用しています。



背丈以上のヨシを力あわせて刈り取ります



ヨシ紙名刺

### 外来魚駆除釣りボランティア

近年、琵琶湖で急増、生態系に深刻な影響を与えているブラックバスやブルーギルなどの外来魚を駆除、“母なる湖”の豊かな生態系を取り戻そうと「外来魚駆除釣りボランティア」を、草津市の琵琶湖畔で開催しました。



88名が参加し、502匹、20.5kgの外来魚を駆除しました

## 環境に優しい建物づくりでエコ促進

店舗の新築や老朽化による建て替えの際には、環境に配慮した店づくりを進めています。

平成22年度は山東支店と高月支店を新築。それぞれ太陽光パネルを設置して、ATMコーナー使用電力相当分をまかなう一方、ソーラー街路灯で節電に努めています。

また、「しがぎん浜町研修センター」（平成20年完成）では屋上緑化や自然採光などお取引先が開発された環境技術を数多く取り入れ、CO<sub>2</sub>排出量を削減しています。



太陽光パネルを設置した山東支店



発電量をATMコーナーに表示

## 地域福祉の向上を願って

### しがぎん福祉基金

社会福祉法人しがぎん福祉基金の「第27回助成金贈呈式」は平成23年4月28日、しがぎんホールで開催され、16団体に助成金総額1,034万円が贈呈されました。これで、昭和60年度(第1回)以来の助成累計は402件、3億315万円となります。

同基金は、当行創立50周年を記念し、地域福祉の向上を願って創立(昭和59年8月)。基本財産(平成23年3月末現在4億4,676万円)の運用収益を原資に、滋賀県内で展開される福祉の実験的・開拓的な取り組みに対して毎年、幅広く助成を行っています。

#### 平成23年度 しがぎん福祉基金助成団体(計16団体)

社会福祉法人 滋賀県母子福祉のぞみ会
滋賀県障害児者と父母の会連合会
人形劇サークル おにぎり村
障害福祉サービス事業所 びわこみみの里
社会福祉法人 かすみ会
特定非営利活動法人 JDD ネット滋賀
特定非営利活動法人 集
特定非営利活動法人 こほく自立支援応援センター
特定非営利活動法人 縁活
KOSEI輝く芸術祭運営委員会
特定非営利活動法人 認知症を学び介護する会 ほほえみ
社会福祉法人 きぬがさ福祉会 障害者支援事業所いきいき
特定非営利活動法人 サンタ
社会福祉法人 唐橋福祉会
障がい児(者)余暇活動サークル にじいろ工房
瀬田地域青年学級



高田理事長(左)から福祉団体の皆さまへ目録を贈呈

## 文化の振興で地域社会の活性化を

### 文化情報を多彩に発信

関連会社しがぎん経済文化センターと連携し、地域に最新情報をお届けする月刊経営情報紙「かけはし」や季刊文化情報誌「湖」を刊行しています。

また、地域の皆さんに楽しく学んでいただける「KEIBUN文化講座」も毎年春と秋の2回開講、歴史や芸術、文化に関するコースをご用意しています。



月刊経営情報紙「かけはし」

季刊文化情報誌「湖」

そのほかに、毎年12月に参加型イベントとして「第九コンサート」を開催、「KEIBUNの第九」として親しまれているほか、滋賀県内の各文化ホールとの共催によるコンサートやイベントを開催しています。



湖国の歳末を彩り、華やかに開催される「第九コンサート」